

「未知への挑戦」 とくしま行動計画

～徳島版「SDGs (持続可能な開発目標)」の
実装に向けて～

目 次

	頁
第1章 計画の基本的な事項	
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の基本理念	1
3 計画の性格	1
4 計画の構成	2
第2章 長期ビジョン編（2060年頃の目指すべき将来像）	
1 時代の潮流（世界～日本～徳島）	3
（1）人口移動・人材獲得競争時代の到来	3
（2）地球環境問題の深刻化と高まる自然災害リスク	5
（3）加速する「Society5.0」の実装	7
（4）加速するグローバル化・ボーダレス化	8
（5）「東京2020オリンピック・パラリンピック」レガシーの創造	10
（6）世界が共有「持続可能な社会」の実現	11
2 将来ビジョン（2060年頃の姿）	13
（1）未知なる社会へ挑戦「かがやく とくしま」	13
（2）未知なる課題を超越「しなやか とくしま」	14
（3）未知なる魅力を創造「ときめく とくしま」	17
第3章 中期プラン編（手の届く未来である「10年程度先」を見据えた「近未来の成長戦略」）	
1 目指すべき姿（10年程度先）と施策の方向性	21
Ⅰ 「安全実感！強靱とくしま」の実現	22
Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現	45
Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現	60
第4章 行動計画編（4年間で取り組む重点施策）	
1 「5つのターゲット」と重点戦略	69
2 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」とSDGs	70
3 「行動計画編」構成事業の重点化	72
4 工程表（「ターゲット」ごとの主な施策と目標）	73
ターゲット1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	75
ターゲット2「強靱とくしま・安全安心」の実装	107
ターゲット3「発展とくしま・革新創造」の実装	141
ターゲット4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	183
ターゲット5「循環とくしま・持続社会」の実装	197
5 計画の進行管理と見直し	222
【参考資料編】	
1 徳島県の現状と課題（データで見る徳島）	224
2 県民意見の反映	243
（1）計画策定（令和元年度版）にあたって	243
（2）計画改訂（令和2年度版）にあたって	246
（3）計画改訂（令和3年度版）にあたって	246
（4）計画改訂（令和4年度版）にあたって	247
【用語解説】	249
単語の右肩に「※」が付された用語の解説	

2 将来ビジョン（2060年頃の姿）

（1）未知なる社会へ挑戦「かがやく とくしま」

一人ひとりが夢や希望を持ち、その実現に向かって、
誰もが輝くことのできる徳島

【人生100年時代、元気な高齢者が地域で活躍するエイジレス社会が実現している】

- ・最先端の医療サービスや健康経営・予防の取組みにより、健康寿命は大きく伸び、豊かな自然や食に恵まれ、保健・医療・介護をはじめとする暮らしのサポートが充実した徳島では、多くの県民が年を重ねながら住み慣れた地域で元気に暮らし、人生を楽しむことのできる「人生100年時代」を迎えています。
- ・県民誰もが、年齢に関わりなく、培ってきた知識や経験、技能を活かし、仕事や社会活動などを通じて、地域でいつまでも活躍し続けられる「エイジレス（生涯現役）社会」が実現しています。

【子どもたちの笑顔が地域にあふれ、未来を切り拓くたくましい若者が育まれている】

- ・「子どもは宝」という意識が社会全体に浸透し、若い世代が希望をもって働くことができ、安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる社会経済環境が実現しています。
- ・ICTの飛躍的な進展により、テレワークなどの柔軟で多様な働き方が一層広まり、ライフスタイルに応じた子育て環境の選択が可能になるとともに、多彩な幼児教育・保育サービスの提供や、経験豊富な高齢者による育児支援といった地域ぐるみで支える子育て環境が充実しています。
- ・学校、家庭及び地域の連携や特色ある教育により、生きる力を支える学力や多様な価値観を身に付け、郷土への理解や愛着を深めた多くの若者が、「ふるさと徳島」への誇りを抱き、社会へ巣立っています。
- ・IoTやAIの活用により、どこに住んでいても多様な学習の機会や学びの環境が整えられ、障がいのある子どもも障がいのない子どもも、希望する場所で習熟度に応じたきめ細やかな教育を受けながら、個性や能力を最大限に伸ばしています。
- ・英語教育や留学、異文化体験を通じた人材の育成や、産業界・地域と連携したキャリア教育が、VR（バーチャルリアリティ）による体験学習なども活用しながら、子どもの発達段階に応じて体系的に行われ、幅広い視野や勤労観・職業観を身に付けた、未来を創造するたくましい若者が世界を舞台に活躍しています。

【誰もが健康的で質の高い生活を送ることのできる社会が実現している】

- ・幼少期からの食育や「地産地消」の推進により、バランスのとれた食生活や、適度な運動や健康づくりを楽しむ習慣が浸透し、生涯健康を保ち、生活の質（QOL）の高い暮らしが実現しています。
- ・医師の「地域偏在」や「診療科偏在」が解消し、広域救急医療体制が更に充実するとともに、遠隔医療システムや機能補助スーツ・ロボットによるサポート、医療・福祉・介護の包括的な連携・充実が図られ、県民誰もが住み慣れた場所で安心して暮らせる地域社会が実現しています。

- ・ V Rや歩行支援ロボット、コミュニケーション支援技術の進展により、障がいのある人もない人も、若者から高齢者まですべての人がともに様々なスポーツやレジャーを楽しんでいます。
- ・ 産学官の連携や県民意識の醸成など県を挙げた取組みにより、世界的な課題であった糖尿病を克服するとともに、世界レベルの研究開発臨床拠点として国内外から製薬企業や研究開発機関が集積し、IoTやAIを活用した高度な医療研究が進められ、研究成果をもとに幅広い分野で新たな医療・サービスが生み出されるなど、世界の健康長寿にも貢献しています。

【誰もがいきいきと暮らし、学び、働き、活躍することのできる“ダイバーシティとくしま”が創り出されている】

- ・ 年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての人が安心して暮らし、自立しながら支え合い、個性や能力を発揮して自己実現できる「ダイバーシティとくしま」が実現しています。
- ・ 性別に関わらず、様々な分野での活躍やキャリアアップが可能となり、また、育児や介護に携わることが当たり前になるなど、男女が互いに尊重し合いながら社会の中で充実した人生を送っています。
- ・ 誰もがライフステージや年齢に関わらず、人生をより充実させるための学び直し「リカレント教育[※]」を受けることができ、柔軟な職場復帰や転職などができる労働環境が整っています。
- ・ ICTの飛躍的な進展により、テレワークをはじめとする多様な働き方が一層進化し、ワーク・ライフ・バランスが図られ、長時間労働や過労死が根絶され、働く時間や場所に縛られず、いつでも、どこでも働くことのできる環境が整い、一人ひとりが“働き方を選ぶ”社会が実現しています。

【人と人、人と地域のつながりの和が広がっている】

- ・ 「共助・共生」の意識が浸透し、福祉や教育、環境保全、まちづくりなど、生活を取り巻くあらゆる領域で、住民やNPO、企業をはじめとする多様な主体による活動が地域を支えています。
- ・ 地域のキーパーソンが中心となり、代々受け継いできた地域資源をベースに多様な人材や異文化との連携により、地域活性化や環境活動などの社会的課題の解決を図るソーシャルビジネス[※]などが活発に取り組まれています。
- ・ 行政サービスと地域の共助活動が融合し、住民サービスが、住民主体のシェアリングエコノミー[※]として提供されるなど、「新たな公共私」の協力関係が構築されています。
- ・ 阿波おどりや人形浄瑠璃などの伝統文化や県人会活動などを通じて、全国に暮らす徳島と関わりを持つ人々との「新たなつながり」が生まれ、徳島の「ファン」が広がり、「人の絆」の力で地域課題の解決が図られ、持続可能で魅力ある地域社会が形成されています。

(2) 未知なる課題を超越「しなやか とくしま」

いかなる困難もしなやかに乗り越え

強靱で、経済や環境とも調和した持続可能な社会・徳島

【自然災害に強いまち・地域・人づくりが進んでいる】

- ・あらゆる災害から県民の生命、財産、経済活動を守り、また速やかな復旧・復興につなげるため、「事前復興」の考え方を基本に、ハード・ソフト両面から県土の強靱化が図られています。
- ・公共施設や民間建築物の耐震化をはじめ、避難施設や緊急輸送道路の整備、集中豪雨や大型化する台風の襲来に備えた治水・土砂災害対策などの事前防災・減災対策が進むとともに、IoTやAI等を活用したインフラの戦略的・効率的な維持管理がなされ、災害に強くしなやかな県土が広がっています。
- ・県内全域において、自助・共助・公助の連携や、自主防災組織による取組みが活発に行われるなど、地域ぐるみの防災力が向上しています。
- ・幼少期からの防災教育等により、県民一人ひとりに防災意識が定着し、地域防災リーダーを中心に事前復興計画の策定や主体的な避難行動につながる防災訓練が行われるなど、自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれています。

【安全・安心な暮らしと豊かな自然が息づいている】

- ・本県が取り組んできた「ライフステージに応じた消費者教育」やSDGsを見据えたエシカル消費の普及、高齢者や障がい者等の消費者被害防止のための「見守りネットワークの構築」などの取組みが全国のスタンダードとなり、「徳島スタイル」の消費社会が定着しています。
- ・安全・安心な農産物などの県産食品の供給や、幼少期からの食育、地産地消の浸透、食品の表示適正化などの取組みにより、安全で安心な食生活や豊かな食文化が継承されています。
- ・地域住民と警察・行政等が一体となった交通安全運動や防犯活動の広まりにより、交通事故が減少し、特殊詐欺やDV、ストーカー、薬物乱用といった日常生活を脅かす犯罪等が根絶された社会が実現しています。
- ・適切な汚水処理などにより清潔で快適な生活環境が確保され、豊かな水辺空間を求めて子どもから高齢者まで多くの人々が訪れ、楽しんでいます。
- ・ブナ林などの貴重な自然林が大切に守られるとともに、生態系バランスの崩壊や農林水産業被害を招く野生鳥獣の適正管理が的確に行われ、本県の恵み豊かで魅力ある自然が将来世代に引き継がれています。
- ・農山漁村や中山間地域では、自然環境と調和した美しい景観を活かした地域づくりが定着するとともに、伝統的な農林水産業の文化的価値が世界的に認められた「にし阿波の傾斜地農耕システム^{*}」をはじめ、徳島ならではの豊かな自然と潤いのあるふるさとの風景が新たな価値を生み出しています。

【環境・経済・社会の調和する持続可能な社会が創り出されている】

- ・県民一人ひとりから社会全体にいたるまで、自然との共生や資源の有限性、地球規模の環境問題など、社会的課題への意識がさらに高まり、環境にやさしいライフスタイルや社会経済システムが選択され、環境・経済・社会の調和する持続可能な社会が創出されています。
- ・エコカーなどの環境に配慮した製品・サービスの購入や、プラスチックごみや食品ロスの削減、モノの所有から必要なときに必要な量だけ利用する「共有（シェア）」への意識転換など、持続可能なライフスタイルが広がっています。
- ・「電気」、「燃料電池（FC）」利用のモビリティ^{*}システムが普及するなど、環境にやさしいヒトやモノの移動スタイルが確立しています。

- ・自然エネルギーが主力電源となり、県内各地において、まちづくりや景観と調和した太陽光発電をはじめ、小水力発電、豊富な森林資源を活用した木質バイオマス発電やその熱利用が広まり、地域分散型のエネルギーシステムが確立され、「エネルギーの地産地消」が実現しています。
- ・公有林化が進んだ森林は、間伐や広葉樹林化により多様な生物が生息する豊かな森へと生まれ変わり、水資源の確保や土砂災害の防止、カーボン・オフセット^{*}を活用した温暖化対策の推進など、県民生活に様々な恩恵をもたらしています。
- ・地球温暖化による気候変動に対しても、農産物の品種改良や企業のビジネスモデルの転換などの「適応策」が社会経済システムの中に浸透し、強靱でしなやかな県民生活が確立されています。

【すべてのヒト・モノ・地域がつながる“超スマート社会”が実現し、誰もが豊かな暮らしを享受できる社会が実現している】

- ・IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの未来技術が県民生活のあらゆる場面に実装され、すべてのヒト・モノ・地域がつながり、様々な知識や情報が共有され、県民誰もが必要な時に、必要な情報・モノ・サービスを受けられることができる「超スマート社会」が実現しています。
- ・産業活動において生産性の向上や新たなサービス・付加価値が生み出されるとともに、くらしの面では、時間・場所に縛られない多様な働き方・学び方や、AIやロボットによる子育て・介護サービスなどが実現し、地域においては、自動運転によるモビリティサービスや現金を必要としないキャッシュレス社会が実現するなど、未来技術によってあらゆる分野に“変革”がもたらされ、県民誰もが豊かな暮らしを享受しています。

【未来技術が幅広くあらゆる産業に取り入れられ、生産性の向上や新たな付加価値を生み出している】

- ・あらゆる産業に未来技術が取り入れられ、これまで分散していた情報やテクノロジーの融合が生まれ、資源・エネルギー使用の効率化や労働力不足への対応などの社会的課題の解決や、新たな価値の創造につながっています。
- ・ものづくり分野では、AI、ロボットによる生産管理の自動化・効率化が進むとともに、消費者ニーズをリアルタイムできめ細かくとらえ、個々のニーズに応じた製品・サービスを提供する新たなビジネスモデルが構築されています。
- ・農林水産業では、栽培管理等に未来技術の活用が進むことで、生産性が飛躍的に高まり、高い付加価値を生み出す成長産業へと進化を遂げています。
- ・道路、河川、上下水道、学校などの社会インフラの維持管理においては、ドローンやIoTによる状況把握、AIによる損傷診断、ロボットによる危険箇所点検など、高精度かつ効率的な管理が可能となり、安全安心な社会インフラが保たれています。
- ・進化したVRや3次元映像などにより、本場・徳島の阿波おどりが放つ熱気や高揚感が世界中にリアルに伝わり、“阿波おどりの聖地・徳島”を訪れるインバウンド客が増え続けています。
- ・AIやARによる多言語に対応した自動翻訳や情報提供サービスが普及し、世界各国から来県するインバウンド客は県内のどこでも円滑なコミュニケーションが可能となり、旅行者は県民との交流を深め、徳島の旅を楽しんでいます。

【3】未知なる魅力を創造「ときめく とくしま」

未来を切り拓くひとが育ち・集い・輝くことで、ひとを惹きつける
新たな価値や魅力を創造する徳島

【地域の強みとイノベーションが結びつき新産業が創り出されている】

- ・世界最先端のイノベーション創出環境を求めて、多くのベンチャー企業や研究開発機関が集まり、次世代LEDをはじめ光関連分野、ICTや環境・エネルギー、医療・健康分野、CNF（セルロースナノファイバー）などの高機能素材分野において、多様な産業・人材集積を活かした新産業・新サービスの創出やグローバル展開が図られています。
- ・徳島が誇る2つのブルー「LED」と「藍」によって織りなされる製品や、優れた機能・デザインが人気を集めている木工家具など、徳島の産業の粋を集めた“MADE IN TOKUSHIMA”が世界中で愛されています。
- ・徳島の風土によって育まれた「安全・安心」、「高品質」を誇る徳島の農林水産物が世界で認められ、海外輸出が飛躍的に増大するとともに、6次産業化やECによる販路拡大が図られるなど、本県の農林水産業が、国内外の「食」を支えています。
- ・豊かで良質な森林資源とドローンやICTを活用した適切な森林管理、優れた木材加工技術を背景に、県産材製品の販路が国内外に広がるとともに、“川上”から“川下”まで、森林資源による持続可能な循環型経済システムが確立され、林業アカデミーの卒業生が徳島の森でいきいきと活躍しています。

【未来を創る人財が育ち・集い・新たな価値が生み出されている】

- ・AIやロボットが多くの職業に取り入れられる中、徳島ならではの人づくり・人財育成の取り組みによって、創造性やコミュニケーション、情報・ICTリテラシーといった「21世紀型スキル」はもとより、相手（ひと）の立場や気持ちを思いやる心、未知の事象に対しても主体的に解決していく“人（ひと）ならではの”力を身につけた“未来を創り出す人財”が育っています。
- ・世界最高水準のICTインフラと未来技術がいち早く社会実装され、豊かな自然を満喫できる快適な居住環境や地域ぐるみの受入れ態勢が整った徳島は、世界をリードする多くのクリエイティブ人財を惹きつけ、徳島の若者たちと刺激し合いながら、「新たな価値」が創造・発信されており、クリエイティブ産業が本県の主要産業に成長しています。

【徳島ならではの文化・スポーツが継承・創造され魅力を増している】

- ・東京2020大会などの数々の国際スポーツ大会や、本県でのキャンプ開催を通じて積み重ねられた世界各国のトップアスリートとの交流が“レガシー”として継承され、若者は、様々な競技種目のトップレベルのパフォーマンスを間近に体感できる恵まれた環境の中で、夢や高いモチベーションを抱きながら指導を受け、徳島から多くのトップアスリートが世界に羽ばたいています。
- ・東京2020大会などを通じて世界に発信された「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン・第九」をはじめとする「あわ文化」は、多くの人々の心に強く刻みこまれ、国内外との交流が拡大するとともに、多様な担い手によって、様々な文化や価値観との融合が図られ、「新たな価値」を創造しながら進化を続けています。

- ・VRをはじめICTの進展によって、より多くの子どもたちが「あわ文化」や国内外の一流の文化芸術を見て、さらに自ら演じる機会が一層広がり、「ふるさと徳島」への誇りを胸に多くのアーティストが世界を舞台に活躍しています。
- ・我が国が誇る世界遺産「四国遍路」での心のこもった“おもてなし”や、世界遺産「鳴門の渦潮」をはじめとした自然景観、また、歴史や風土、人々の暮らしの中で育まれてきたまちの景観、さらには雄大な河川やバラエティに富んだ海岸でのラフティング・サーフィンといった体験型スポーツ、アニメやeスポーツ^{*}などを取り入れた徳島発のイベントなど、徳島の歴史・自然・文化を活かした観光資源が地域の魅力として輝きを放ち、世界中から旅行者を惹きつけ、リピーターを増やしています。

【未来につながるインフラ整備により徳島のポテンシャルが増している】

- ・災害時のリダンダンシー^{*}の確保にも寄与する「四国8の字ネットワーク」や四国新幹線などの高速交通ネットワーク、世界とつながる空港・港湾への国際定期便の運航やクルーズ船の寄港を通じて、国内はもとより世界との交流が飛躍的に拡大するなど、徳島の有するポテンシャルがさらに高まっています。

【未来技術を活用した地域課題の解決や地域づくりが進んでいる】

- ・未来技術が地域社会に実装されることにより、ものづくりや農林水産業、医療、介護などの地域の担い手・労働力不足といった地域課題の解決が図られ、地域の暮らしに豊かさやゆとりが創出されています。
- ・ICTインフラと未来技術の進展によって、どこに住んでいても様々な職業を選択することが可能となり、若者は地元に住みながら世界の第一線で活躍し、都市部から地域への移住も増えています。
- ・自動運転バスや、需給に応じて配車が行われるシェア型モビリティが県内各地で運行され、移動サービスのネットワークが構築されるとともに、ドローンや自動運転トラックによる買い物支援・物流サービスが提供され、移動手段や買い物に困ることのない地域社会が実現しています。
- ・ICTや自動運転技術が進展する中においても、人々がフェイスtoフェイスで出会い、対話の生まれる拠点づくり・ユニバーサルなまちづくりが進み、多様な移動サービスによって拠点と拠点が結ばれ、子どもから高齢者まで多くの人々の笑顔であふれています。
- ・県や市町村など地方自治体は、AIやロボティクスなどが積極的に導入されるとともに、様々な情報システムが標準化・共通化された「スマート自治体」へと転換し、持続可能な形で行政サービスが提供されています。

【“ひと”と“しごと”の好循環を通じて、持続可能な社会が実現している】

- ・日本全体が「人口減少社会」を迎える中、徳島では「ひと」と「しごと」の好循環を通じて、持続可能な社会を実現し、2060年に「55万人～60万人超」の人口水準が確保されています。

「とくしま人口ビジョン」の実現に向けて

■目指すべき方向性

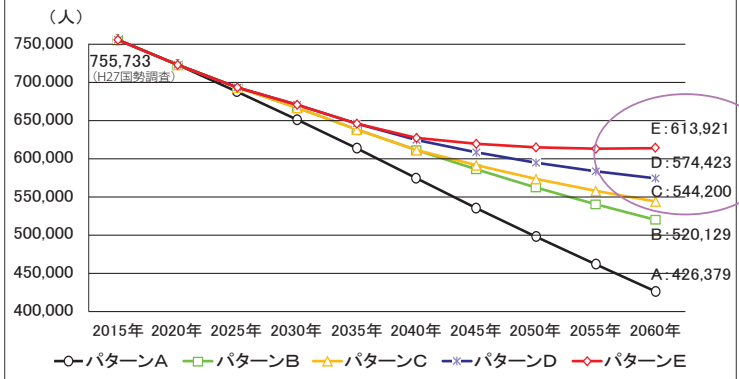
人口ピラミッドのプロポーションを意識した
人口減少対策の展開
⇒ 「持続可能な人口構造」を構築！！

■基本目標

Society5.0時代の「ひと」と「しごと」の好循環を創出することで、全世代のあらゆる人々が輝く「持続可能な社会」を実現

- ◇ 「未来を担うひとの流れ」づくり
- ◇ 地域を支える「魅力的なしごと」づくり
- ◇ 結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり
- ◇ 安全・安心「持続可能な社会」づくり

【自然動態】 合計特殊出生率の上昇
【社会動態】 転入転出者数の均衡



パターンA： 国立社会保障・人口問題研究所の推計（H30年）に準拠

パターンB： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2040年以降：2.07）
転入数と転出数が均衡（2030年以降：均衡）

パターンC： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2040年以降：2.07）
転入数が転出数を上回る（2030年以降：均等、2040年以降：1,000人超過/年）

パターンD： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2030年以降：2.07）
転入数が転出数を上回る（2030年以降：均等、2035年以降：1,000人超過/年、2040年以降：1,500人超過/年）

パターンE： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2030年以降：2.07）
転入数が転出数を上回る（2030年以降：均等、2035年以降：1,500人超過/年、2040年以降：3,000人超過/年）

2060年に「55万人～60万人超」の人口水準を確保！！